

1

a

保証

b

難

c

副詞

2

聞き手

こと

3

抽象的

こと

(完答)

4

A

エ

B

イ

C

オ

D

オ

5

半ば

もの

(完答)

6

聞きもの

7

(記述題)

8

(記述題)

9

ウ

10

ア

×

イ

○

ウ

×

エ

×

(完答)

2

1

a

絶賛

b

法人

c

沿道

2

A

真

B

力

C

赤

3

I

非礼

II

むかつく

4

X

イ

Y

ウ

Z

ア

5

ア

6

音楽に

7

(記述題)

(完答)

8

エ

9

イ

10

それは

エス

1

7

具体性を欠いているがゆえに、大勢の人にとって受け入れやすい、無難な

(同意可)

8

あまり美味しくない料理が出てきた

(同意可)

2

7

裕福な家庭に生まれる

かどうか

自分の興味を尊重される

かどうか

生まれの運のよさを他者と

かどうか

(順不同・完答・すべて同意可)

〔配点〕	
1	1
7	1
8	4
2	2
7	1
2	2
7	2
各2点×13	各2点×13
各6点×3	各6点×3
各4点×14	各4点×14
56点	56点
18点	18点
26点	26点

1 ① a 「保証」は、たしかであると証明すること。同音異義語に気をつける。b 「難」については、「難を逃れる」の形で慣用的な表現として知っておこう。c 「副詞」についても同音異義語に気をつけて書くことが大切である。

2 言外の意味について述べている、本文の前半部分をたどっていいこう。設問の言い回しである「くによって生じる」がそのまま本文中にもあることに気づけば容易である。

3 前問と異なり、単純に「どのようなものですか」という問いなので、本文全体を大きく二つに、つまり言外の意味についての前半と言葉の不明確性についての後半とに分けられていれば、後半の冒頭にあるので見つけるのは容易い。

4 文脈からも解けるが、基本的には単純に言外の意味を読み取れるかを問うている。Aは単にいないかを問うているのではなく、いるのであれば話がしたいという意味である。Bは直前にもあるように大人と子どもであれば要望ととれるが、対等な大人同士であれば食べに行こうという意味に取ることが（たんに宛先のない発言である可能性を除けば）かなりの確度で可能である。Cは明日の朝が早い、したがって今日の夜時間がないと考えれば、一般的には断りの意味合いであることが多いだろう。Dについても、イエスカノーで答えられる質問に対してわざわざ「好きな人がいる」という返答するのは「他の人」であることを示唆していると取るケースが多いだろう。

5 理由が問われているが、直前に「ため」とあるので、その前を答えにする。慣習なので、いちいち意識しないということである。

6 後続の例から考えると、「相手による」ということである。言外の意味の特徴として、「あくまで聞き手側が推測するものなので」と述べられていたことと合わせていくとよいだろう。

7 段落冒頭が「また」なので、「ぼんやりした言葉」の例として列挙されているものの一部である。この段落のなかにも「ぼんやりしている」と述べられている。後半については、空所直後の「反発を受けにくい」につながるよう、「多くの人が受け入れやすい」ことを書けばよい。

8 「味についての具体的な言及を避けた、巧みなコメント」とあるので、言及しにくい味である場合の話であることがわかる。

9 「表裏一体」という言葉を言いかえていく。便利さと不明確性の双方に触れた答えが望ましい。エは「不明確性という便利さ」という表現が端的に矛盾であり、本文中に見える言葉だからといってよしとせず、内容を精査しよう。

10 ア「ない」もあいまいな言葉の例であった。ウ伝えなければ工夫が必要になる場合もあるだろうが、そういった意識的なものばかりではないということも述べられていたので、全称的に断言はできない。エ「無くせ」と言っているのではなく、「便利さと表裏一体」なのであった。

2 ② 1 a 「絶賛」は、大変にほめたたえること。b 「法人」は、字は易しいが、小学生にはなじみがない言葉であろう。会社などのように、法律によって一定の権利が認められた組織・団体のこと。c の「沿道」については、「沿」の字形に注意したい。「浴」としないこと。2 A の「真に受ける」は本当のことと思って真剣に受け止めること。B は「呟く」という状況から「力なく」とする。C の「赤の他人」はまったくの他人だという強調表現である。

3 I 問いをていねいに読み、問われたことに對する答えになるよう強く意識すること。「言っちゃった」なので、相手にとってネガティブに受け取れる表現であることは理解しているということであろう。このときのことをさして「二次選考の夜の非礼」とし、それを詫びるという箇所が出てくる。

II 問いをていねいに読み、問われたことに對する答えになるよう強く意識すること。「ここで勇仁の母がしたような種類の発言」とあるが、これはもちろん、「うちの状況」とか「子供が夢みたいなことを言い出したら」など、「生まれたお家が悪かった」から諦めるという意味合いのことである。これに對しては「親のせいで子供の未来が狭まっていくのを見ると」「むかつく」と発言している箇所がある。

4 X は「疲労で濁った目」という表現に合うものがよいだろう。Y は「危なっかしいのに瑞々しい」と合うものを選ぶ。Z は呟く様子を述べたもの。疲労の上に想定外の展開が重なっている場面であることをふまえよう。

5 「目の奥で」「刃を抜くように光った」、「ステージに似ている」なので、完全な覚悟とは言えないが、ステージに立ったときと同じ強い気持ちで奥に宿っているということを述べていると読めるだろう。貧しい家庭では親にも子にも選択肢がないか、あっても見出せないというのが本文を一貫して流れている背景なので、イとする根拠に乏しい。また、「汚れた照明」とあるので、ウも選べない。

6 ナナオも親に對して不満を抱いていることはくり返し述べられている。傍線部の直前の箇所にも、「教養のないくそう言われたらその通りだ。ごもつともだ。／でも、どれだけ言い聞かせようと」とある。この箇所からも「教養がない」や「名付けのセンスがない」といったことは読み取れるが、もつとはつきりと述べられている箇所があり、「ナナオが一番理解している」に続く「理解」の内容が適当だろう。

7 対照的ではあるが、ナナオと勇仁を考えると、「家の貧富」「興味・希望・適性への理解」は取り出せそうである。もうひとつは直前にあるが、「運がよかった分を他人や社会に結びつけるかどうか」であろう。

8 「救う」というような相手のための行動という以上に、「捌う」という自分の意志からの行動であって、勇仁の才能を見出したナナオが若干強引に勇仁をその気にさせていると考える。

9 エスペランサに通う子供達の持ち物である。全体として貧困にあえぐ家庭との「格差・階級」とでも言わざるを得ないようなものを執拗に表現していたことは理解してほしい。その線に沿って考える。

10 勇仁のように突き抜けた才能があれば貧困から抜け出せる道がかすかに見えることはあるが、そうでない場合は「どうすればいいかな」ということである。不安や諦念といったものに近いのであろうが、その原因は彼／彼女らの置かれた状況ということになるだろう。個々に異なるそれらの状況に對して当事者でない人間が何か言えることやできることがあるだろうかと自問自答するナナオの心情に通じるのが、「エスペランサの子供達の抱えたものを、不当に薄めるだけだ」である。